

岐阜高専「平成24年度東海・北陸地区国立高等専門学校教務主事会議」を開催

岐阜高専は、11月15日(木)、16日(金)の二日間にわたり、岐阜市内のホテル等において「平成24年度東海・北陸地区国立高等専門学校教務主事会議」を開催した。

会議には、東海・北陸地区国立高専の教務主事9名が参加し、一日目は、事前に各校から提案のあった承合事項及び協議題について討議を行い、二日目は、隣接県にある同校卒業生も多数就職し、世界的にも高い技術力を保有している塑性加工(金属プレス・鍛造関係)の企業見学を実施した。

一日目の会議では、まず各校から事前に回答を求めた承合事項「授業時間の100分、90分の実施状況」、「高度化再編への取り組み状況」、「留年・退学者対策」、「混合学級、習熟度別クラスなどの実施状況」についての回答の説明を各校が行い、続いて「モデルコアカリキュラムの実施に伴う問題点と各校の対応の現状」、「大括り入試の実施と学科配属の際の問題点」、「学習障害の学生の対応」等について協議を行い、モデルコアカリキュラムの平成26年度導入に向けての各校の準備態勢を確認し、カリキュラムをどのように反映させて教育の質の保証を目指すのか、また現場の繁忙・多忙対策はどう講じるのか等について意見を交換した。



開会の挨拶を行う岐阜高専の加藤浩三教務主事